順正寺報　第十九号

秋季彼岸会法要御案内

残暑きびしき候、貴家皆々様には御健勝にて、お過ごしの御事と存じ上げます。

さて、古来より日本民族の行事として親しまれてきた彼岸会（秋季）が近づいてまいりました。

当山「順正寺」でも壇信徒の総霊位をまつり、仏恩報謝の念いをこめて、下記の通り『秋季彼岸会法要』を厳修致します。

御承知の通り彼岸会は、「御先祖の徳をしのび、今日、自分がある事のお陰を喜ぶ」大事な行事です。

公私共、御多忙とは存じますが、万障繰り合せの上、御参詣下さいます様、お願い申し上げます。

△口　学

順正寺　住職

江　口　貫　照

記

九月二十六日（月）

『結願の日』

午後一時より

読経　法話　おとき

以上

※ご自宅での読経をご希望の方は、お電話下さい。

彼岸入り　9月20日（火）

お中日　9月23日（金…秋分の日）

結　願　9月26日（月）

※寺へ御遺骨をお預けの方は、彼岸中に（20日から26日の間）必ず御参詣下さい。

尚、23日（金…秋分の日）、25日（日）に御参詣下されば、本堂にて、読経供養いたします。

『自身』

副住職　江口貫正

さて、この宛名書きが終わると、私にはバカンスがまっている。毎回、寺報を出す都度に思う事。「これが終わったら、すぐにまた宛名書きを始めよう。一日三十枚書けば、十日で三百枚、一ヶ月で九百枚。やっぱり、地道にこつこつと。継続は力なりだよな」と。しかし世の中、そんな甘いものではない。

喉元すぎると熱さ忘れる。

だいたい、三日で千枚書いた後は、しばらくは封筒の顔も、住所録も見たくない。まして、ペンを持つなんて、まっぴらごめん。というわけで、また、ギリギリまで宛名書きはやらず、切羽詰まって泣き言ほざきながら2～3日で仕上げる。何年経っても性格は変わらないので、最近は諦めていますが・・・。

で、バカンスであります。南の島へ、『バリハ～イ』・・・バリではありませんが、近くのマレーシアというところの島へ行きます。とりあえず一週間、何も考えんと、のんびり過ごそうと思っているのですが、

「何も考えん」…こんな事を言うと、「それじゃ普段と同じじゃないか」と突っ込まれそうなんで、「マリン・スポーツをやるのさ」と、格好つけてみる。しかし、私は泳げない。出発までにスイミング・スクールに通って泳げるようにしようなんて思っていましたが、なにしろ、旅行を申し込んだのが二週間前。そのうえ私は、夏は何かと忙しい。結局、スイミング・スクールなんて行けなかったし、やっぱり、浜辺で昼寝しか残された道はないかもしれない。南の島で昼寝。石神井で昼寝。一体どこが違うのだろうか。まっ、やってみなけりゃ解らない。

話は全く変わりますが、今年も、『東京七組同朋大会』を開催します。練馬、板橋、北、豊島区内の真宗寺院十四ヶ寺が集まってのイベントであります。前回は、何を隠そう、私が作った戯曲、弟の演出で、『蓮如』という芝居を上演しました。ちなみに、とっても、とっても評判が良く、今年一月に関東地区全体のイベントにも、「是非やってくれ」と頼まれて、やってあげたわけで、私の鼻はグン

グン伸びまくりです。今回は、私より天狗の弟が作・演出で『なつかしい音、なつかしい風景』という芝居を掛けます。前回と打って変わって現代劇。内容も弦楽四重奏を入れての、凄く新劇らしい芝居であります。キャストは、前回同様、全員坊さんでお贈りします。

今回、私は何をやるかと言うと、『節談説教（フシダンセッキョウ）』というのをやります。これは明治期まで日本のお寺ではよく聞くことができたものですが、近代仏教の確立と共に消えてしまいました。落語、浪曲の原点。唄うように語り、語るように唄うという、失われた日本の話芸の一つであります。本来なら、説教師（ほんとに僅かですが、節談を守っている方がいます）を呼んで、本物をお聴き頂きたい。頂きたいのは山々でありますが、なにしろ、当イベント、全て十四ヶ寺の持ち出し。タイアップ無し。スポンサー無しでやっております故、お礼ができない、ベンベン。そこで安易にも身近で済ます事となり、私がやることとあいなりました。

この節談、ラヂオ、テレビ等、娯楽のない時代の娯楽としての要素もあるため、内容はとても面白い。説教と言えども、笑い有りの聴き易き代物。もっとも、演者は若輩のこの私。どこまで演じ切れるかは定かではない。まぁ、失敗もご愛嬌。老若こぞって足をお運び下されれば、我は、嗚呼なんたる幸せ者よ。喉を潰し、声を涸らす甲斐もある。宜しくお願い致します。

前後しますが、今会のテーマは『なつかしい音、なつかしい声』（見失われたこころをもとめて）となります。社会が豊かになるにつれて、失われてゆくもの多々有りと、言い古された言葉であります。しかし、今一度、確認する事が必要かと思われます。仏教生活で言えば、核家族化が進み、お内仏（仏壇）の無いお家も大変多い。曰く、「うちにはまだ仏さんがありませんので」。馬鹿言っちゃいけない。仏様がないなんて。あんた誰から生まれたの。先祖はいないの。そりゃ、あと百年か二百年かすりゃ、ＳＦみたいに工場で生まれる子供も出てくるかもしれないけど。こんな事言うと、やれ、「仏教は先祖供養、

先祖崇拝の原始宗教だ」なんて事を言う。「生活は～教（新宗教が多い）。先祖供養は仏教で」。「家は長男でもないし」。まぁ、それで済んでいることは確かだし、何の不都合もとりあえずはないでしょう。しかし、先祖を供養するというのは、どっか箱の中に閉じ込めて、飾りたくって、お経責めにする事ではないのです。今、自分がここに居るのは、多くの先祖の歴史の結果として命を授かり、又、縁を受け一人前として生きてるわけです。

自分、自分と言うが、自分を取り巻く『縁』（環境）なくして自分はないわけですし、又、過去の生命の歴史無くして自分もない。

そして時が経てば、この私も、命の歴史の一員となる。

個（自己）の確立、独立とは、エゴの肯定されたものではありません。多くの関わりの中でいきていかなければならない『自分の姿』をきちんと認識する。そこに、独り立つという事が有るのです。

自分の『命の歴史』

見失っていませんか？　了

『報恩講』の御案内

来る、十一月三日（木…文化の日）、午後一時より、『報恩講』を厳修致します。

『読経』、『法話』、『おとき』を同じ場所で、同じ時を過ごして頂く事を通して、共に歩む『同行・同朋』であることを認識していく、ひと時です。皆様、お誘い合わせの上、万障繰り合わせの上、御参詣下さい。

尚、改めて次号の寺報にて御案内させて頂きます。

合掌

『僕が今僕のことを語る。語られる僕は必ず過去の僕だ。今の僕がいるのに、過去の僕は必要不可欠な存在なんだ。』

良い意味でも、悪い意味でも『宗教』が世間に今、ほど使いようによっては人心を錯乱されているものもなく、人間同志の考え方の違い、生き方、文化の違いをコントロールするものは無い。そこから、なぜか迷いを生ずる。一度、『君は不幸だ』とか『霊が付いている』などと陥れてから、いかにも、解った顔をして『救ってやる』などと言って金を取る。

自分の源を見詰めていくことで、そこに多くの先輩が残していった足跡をみつけだし、生きる糧としていく。迷わせるためにあるのが宗教ではなく、宗教の起源は迷いをいかにしてなくしていくかを聞いてゆく事だと思う。ほっといても、我々は迷って生きている。どう、自分なりに捕えて、解決していくか。それを教えてくれているのが絶えること無く続いて来た教え、『宗教』といえる。続いて来て、続いて行く世界の中に生かされている。

〒177東京都練馬区石神井町3-17-4
電話03（3996）2064
FAX03（3997）8117
順正寺